

## 中国・南昌市への青年訪問団派遣事業 事後報告書

◆学校名と名前：高松大学 井本有彩

江西省及び南昌市に滞在中の様子（写真を含む）や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。（1,000字程度）

南昌・高松日中友好会館では、高松市と南昌市が友好都市を結ぶにあたっての歴史や両市の交流の様子のお話を伺いました。中国の最先端の映像技術を用いながら丁寧に説明してくださり、南昌市との交流はこの先途絶えてはならないと強く受け止めることができました。南昌市の教育についての資料もあり、南昌市の小学校数を表したグラフや、教育の目標などについて写真を交えながら記載されていました。高松市内の小学校との交流の様子も写真で見せていただきました。次回南昌市の方々が高松を訪問されたときは、ボランティアとして交流会や観光案内に携わりたいです。

日中青年交流大会・歓迎セレモニーでは、岡山県から来た高校生や中国の学生、韓国の大学生と同じテーブルで談話しながら中国の伝統的な料理を食べました。どの料理にも香辛料が入っており、日本では味わうことのできない不思議な料理ばかりで、次々と出てくる料理にワクワクしながら食事を楽しむことができました。私は特に豚骨スープとエビとトマトの香辛料炒め、春巻きが美味しいと思いました。自宅に帰ってから味を再現しようと思い、作ってみました。本場の味は再現することができませんでした。そのため、滞在中に本場の中国料理を食べることができたのは、人生の中で貴重な経験だと感じました。また、食事を楽しみながら、各国の5分間の発表を見ました。各国の伝統的なダンスや歌、地域の特産物のアピールなど、その地域の特色を5分間でよく学ぶことができました。私たちがドラえもんの歌をステージで歌いだした途端、会場にいたほとんどが、周りの仲間と笑顔で顔を合わせていた姿が印象的でした。世界中で人気のキャラクターの歌を発表することができて良かったです。2回目の発表では、高松市の特色をパワーポイントで写真を交えながら説明していきました。5分間で会場の方たちを魅了するのは難しいと思いますが、少しでも高松市のことについて知ってもらえたらいいなと思いました。

南昌 VR 技術館では、飛行機やジェットコースターに乗ったり、ジャングルの中を冒険したりする VR を体験しました。映像にリアリティがあるのはもちろん、前から風があったり、座席が大きく動いたりしました。中国の最先端の技術を実際に体験することができて良かったです。

中国陶磁器博物館では、古代から現代までの陶磁器の変化を学びました。現代に近づくにつれて、陶磁器が大きくなったり、柄が華やかになったりしていました。形や色使いは作る人によって様々であり、一つひとつの陶磁器をよく観察していくことが良かったです。陶磁器が完成するまでの経緯や作成者の思いなどについても学ぶことができました。

7日間を通して、建物の数やビルの数、街を歩いている人々の数、車・バイクの数などから、江西省の街の大きさを身に染みて体験することができました。また南昌市を訪れる機会があれば、今回では気づくことができなかった南昌市の魅力にも気づいていきたいです。